文部科学省「大学による地方創生人材育成教育プログラム構築事業」

ENGINE NEWS vol.15

地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム「ENGINE」

事業連繋大学：信州大学、富山大学、金沢大学

特殊講義　地域課題解決型プログラムーENGINEインターンシップ ～富山大学で中間報告会を開催！～

特集

8月22日（月）の「地域課題解決型プログラムー ENGINEインターンシップ」では、富大生だけではなく信大生・金大生、協力企業の皆さまが、富山大学に一堂に会し、中間報告会を開催しました。

3大学の学生が「食」「観光」「交通」「インフラ・ものづくり」の4テーマ、5チームに分かれ、地域が抱える課題について意見を交わしました。コロナ禍で学外調査も難しい中で、大学、学年、学部の異なる学生が一つのチームを組み、助け合い、議論を交わしながら9月22日の信州大学での最終報告会に向けて取り組んでいます。

食

A班は「食による地域創造」とのタイトルで中間報告を行いました。富大生では巽真由さん（経３）、横道彩夏さん（理３）、西目桃子さん（経２）が富山県の食と農をめぐる現状と課題を発表しました。

巽さんと西目さんは「社会人と直接話をすることは初めてで、就職活動前に、貴重な経験となった」と感想を寄せています。

チームで議論を深めるA班

食

富大生では清水朋己さん（経3）、杉山貴哉さん（経2）、林美希さん（経2）がB班として活動しています。B班は「農の現場に若い人材を増やす」ことをテーマに取り組み、‘’若い人材を増やすためには農業の魅力を訴求していくことが大切‘’だとし、半農半Xに注目しています。清水さんは「インターンシップでは価値観の違い等の気づきを得た」と語っています。

講義に耳を傾けるB班

観光

「観光」がテーマのC班は「観光～地域／産業の現状・めざす姿・課題について～」とのタイトルで櫻井悠貴さん（工3）、小原周也さん（経2）、番留帆乃花さん（経2）が中間発表を行いました。

班ごとに協力企業のメンターからフィードバックをもらい、櫻井さんは「メンターミーティングで目標設定が明確になった」と語っています。

ミーティングを続けるC班の様子

交通

「交通」がテーマのD班は「過疎駅を消滅させず、より活気あるものにしていくためには、どのようなことをして行けば良いのか」について調査を進めています。富大生では杉下晟作さん（経3）、細貝優さん（経3）、角崎莉央さん（経2）が参加し、PR動画や、駅に設置できるような観光パンフレット、ポスターの作成を視野に活動を進めています。

企業のメンターと活動をふり返るD班

ものづくり

E班は「インフラ・ものづり」のテーマに対して、「ものづくり」にフォーカス、「伝統工芸品と後継者不足」とのタイトルで中間報告を行いました。八木原直樹さん（理3）と、辻村萌絵花さん（経2）は、伝統工芸品の需要の低下や、原材料の不足問題、担い手不足について、インタビュー調査を中心に分析しています。

課題発表をするE班

発行：富山大学ENGINE（嘉瀬井恵子　地域連携推進機構地域連携戦略室）
本プログラムに関する問合せ　✉: t-senryaku@adm.u-toyama.ac.jp
2022.8.24発行（毎月発行）　※VOL15は、インターンシップ臨時号として発行しています。

←ENGINEプログラムの詳細は左記Rコード

ENGINE facebook QRコード→